

アジア債券市場育成イニシアティブへの取り組み

日本政策金融公庫国際協力銀行 西沢利郎

アジアでは、1997年に発生した通貨危機の経験を踏まえ、金融における通貨・期間のダブルミスマッチを緩和することによってリスクを軽減すると共に、域内の潤沢な貯蓄を域内の中長期の投資に結びつけるため、金融仲介機能を拡充・深化させることが求められている。こうした政策課題に沿って、ASEAN+3（日中韓）諸国の財務省・中央銀行は、2002年12月の非公式セッションで日本政府が「アジア債券市場育成イニシアティブ（Asian Bond Markets Initiative、ABMI）」を提唱して以来、アジアにおける債券市場育成へ向けた包括的な取り組みを続けている。

このような背景のもと、国際協力銀行（JBIC）は、日本政府の対外経済政策の一翼を担う政策金融機関として、アジアの現地通貨建て債券の発行、日系企業が発行する現地通貨建て債券やクロスボーダーの債券担保証券（汎アジアボンド）への保証供与などを実現し、アジアの債券市場育成に貢献している。今後の可能性としては、域内公的輸出信用機関との連携による債券担保証券（CBO）構想の具体化、インフラ整備資金の調達に資する新たな債券の開発、イスラム債市場の育成などが考えられる。

アジア債券市場の育成には、市場インフラ整備への取り組みに加え、新しい商品の開発によって、発行体の資金調達ニーズに応え、投資家にとっての資産運用の選択肢を増やす努力が求められる。また、政策形成・公的支援を行う「官」と市場の担い手である「民」との間で情報・認識の共有や実務的な協力を推進することが重要である。

※ サブプライム問題のインプリケーションやグローバルな資本の動きなど、国際金融市場の動きと絡めた議論も盛り込む予定。